

「調査の信頼性」向上に向けて

技術研鑽と同時に 自ら自分を守ろう

光洋土質調査 遠藤 計会長



協会会長

エコプローブ協会は、指定調査機関の情報開示・業務品質管理に関するガイドラインの採択について、高い品質を同一レベルで実施できるようにしていくことを目的として活動している。昨夏環境省が公表した「土壌汚染対策法」に

取の技術には日々研鑽の上、努力していかねばならない。この中で、試験採取の質はもとよりであるが、現場担当者「汚染物質の試料採取」というリスクから、自ら自分を守ることを視野に入れていかねばならない。現在見直しが進められている土対法においては、従来の指定基準とは異なる、対策の要・不要等を判断するための判断

技術向上とともに リスクに対し勉強

エイテック 岡田 宏 社長

わが社では環境省が示す情報開示の準備を進めたガイドラインに基づき、近々ホームページで

も公開する予定である。一方、現在の土対法改正の動き不安な一面もある。わが社では昨年観測井戸を持ち継続モニタリングしていくことも認識している。リスク管理の観点から、こうした顧客に対して、リスク管理の観点で説明できるようにしていく必要がある。協会活動を通じ、会員各社が一丸となって適切な土壌汚染対策が進められていくことを目指して行きたい。(えんじ・はかる)

井戸掘削の経験を 浄化分野に生かす

エヌケー新土木研究所 中村 健太郎 社長



今回の土対法改正の流れにおいて、指定調査機関に対する業務の品質管理の動きも踏まえ、土壌汚染調査用の掘削機械であるエコプローブを活用した、サンプリングやモニタリング用の井戸設置等の経験を浄化の分野に生かしたい。既に現場では、パイオレメディエーションなどによる浄化作業を行っているが、浄化作業を行う際には、汚染土壌を場外に搬出せずに原位置で浄化対策を

エコプローブ協会 理事インタビュー

環境省が昨年7月に「土壌汚染対策法」に基づく指定調査機関の情報開示・業務品質管理に関するガイドラインを公表するなど、調査の信頼性向上に向けた動きが活発化している。先月末の中央環境審議会による「今後の土壌汚染対策法」に関する答申においても、調査の信頼性確保が重点項目として盛り込まれ、今後指定調査機関への品質確保等に関する要求はますます高くなりそうだ。指定調査機関が多数参加しているエコプローブ協会の理事会社6社に、要求高まる調査事業への取り組み等について話を聞いた(50音順)。(名古屋通信)



エコプローブ協会では会員企業の技術力向上に向け、定期的に講習会を開いている。

企業綱領に掲げる 責任、誇り、技術力

ジオ・フロント 高清水 祐之 社長



協会会長

「第1に自分たちの仕事は人間の生活基盤と生活環境の保護・保全のための基礎的業務である」という実力を磨き、第3にエコプローブ協会のように「同じ条件と運命にある同業他社と力を合わせ、機軸と技術力、それに基づく正確・安全・迅速な作業能力」という実力を磨き、第3にエコプローブ協会のように「同じ条件と運命にある同業他社と力を

適切な知識不可欠 作業員も技術者へ

城東地質 高橋 渉 社長

わが社が土壌汚染調査を手がけてから10年が経過した。技術的な観点から、試料の採取方法等をより正確に確立でき、一般に浸透してきたので、たかといふ感じではないかと感じている。

わが社が土壌汚染調査を手がけてから10年が経過した。技術的な観点から、試料の採取方法等をより正確に確立でき、一般に浸透してきたので、たかといふ感じではないかと感じている。

豊かな環境と文化 次世代へ継承する

総研基礎 今井 禎宏 社長



現場は、机上ではなく実際に現場を担当する様々な特色を持つ。協会が主催する講習会を通じて、情報交換している。今後こうした共生・連携・コミュニケーションとしての取り組みは、開かれた組織で進めたい。(たかし・わたる)

現場は、机上ではなく実際に現場を担当する様々な特色を持つ。協会が主催する講習会を通じて、情報交換している。今後こうした共生・連携・コミュニケーションとしての取り組みは、開かれた組織で進めたい。(たかし・わたる)

現場は、机上ではなく実際に現場を担当する様々な特色を持つ。協会が主催する講習会を通じて、情報交換している。今後こうした共生・連携・コミュニケーションとしての取り組みは、開かれた組織で進めたい。(たかし・わたる)

Change! Yes We Can!! エコプローブ協会会員が環境調査を変えます

本協会は、土壌汚染調査におけるサンプリング技術および工事の質的向上だけでなく、作業の安全に対する認識の統一と次世代の技術者の育成を目標として活動しております。

活動内容

- 安全施工マニュアル、工法パンフレット・ホームページの作成
- 施工技術の開発や特許の取得
- 宣伝及び普及
- 施工技術情報の交換



エコプローブ協会 Eco-Probe Association (EPA)

〒106-8552 東京都港区六本木7-3-7
TEL 03-5775-3939 FAX 03-5775-3967
URL : http://eco-probe.jp

エコプローブ協会加盟リスト

- ◆北海道地区 (株)安住ボーリング (株)ACE試錐工業
- ◆東北地区 (株)共和開発 後藤ボーリング(株) 日本地下水開発(株) (株)福島地下開発 (株)北東地質ボーリング
- ◆関東・甲信越地区 (株)アーバン利根 (有)いどや 磐城ボーリング工業(株) (株)エヌケー新土木研究所 (有)コーエー地質調査事務所 光洋土質調査(株) 久喜鋼管工業(有) (株)彩地下テクノ (有)澤田ボーリング (株)サンケン試錐コンサルタント ジオ・フロント(株) ジオラフター(株) 城東地質(株) (株)伸栄機工 伸光エンジニアリング(株) (株)創和 (株)地質環境エンジニアリング (株)東亜利根ボーリング (株)東邦地下工機(株) (有)中澤粘土 (株)中村ボーリング (株)萩原ボーリング (株)横浜技研 吉沢原動機(株) ◆中部・近畿地区 クオリティハウジングチェック(株) (有)栄地地質 東邦地水(株) (株)レック中部 (株)ヨコタテック ◆中国・四国地区 (株)エイテック 山陽建設工業(株) サンイン技術コンサルタント(株) (株)藤井基礎設計事務所 (株)北和 (株)マスタダ商店 ◆九州・沖縄地区 (株)セウテック 藤永地建(株)

